



2024年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年2月14日

上場会社名 株式会社グリッド 上場取引所 東
コード番号 5582 URL <https://gridpredict.jp/>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 曾我部 完
問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 洪田 淳一（TEL）03(5468)8800
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有（ 機関投資家及びアナリスト向け ）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年6月期第2四半期の業績（2023年7月1日～2023年12月31日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第2四半期	638	—	3	—	△17	—	△14	—
2023年6月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第2四半期	△3.16	—
2023年6月期第2四半期	—	—

（注）1. 2023年6月期第2四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2023年6月期第2四半期の数値及び2024年6月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 2024年6月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第2四半期	3,579	3,215	89.8
2023年6月期	1,576	1,166	73.9

（参考）自己資本 2024年6月期第2四半期 3,213百万円 2023年6月期 1,164百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年6月期	—	0.00	—	—	—
2024年6月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年6月期の業績予想（2023年7月1日～2024年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,753	29.5	342	64.3	323	58.5	284	24.4	61.11

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年6月期2Q	4,684,200株	2023年6月期	3,636,000株
2024年6月期2Q	—株	2023年6月期	—株
2024年6月期2Q	4,620,418株	2023年6月期2Q	—株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 2023年6月期第2四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2023年6月期第2四半期の期中平均株式数は記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についての注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2024年2月15日(木)に機関投資家及びアナリスト向けに説明会(ウェブ)を開催する予定です。なお、当日使用する決算説明資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、景気が緩やかに回復しているものの、世界的な金融引き締めが継続する中で経済への悪影響が懸念されるなど、先行きの不透明な状況が続きました。また、原油価格の高騰局面が長引く中で円安が進行し、エネルギー価格はさらに上昇することとなりました。そのため、様々なリスクを踏まえたうえでの安定的かつ経済的なエネルギーの需給体制が引き続き求められ、エネルギー消費の効率化が社会全体の重要な課題の一つとして考えられております。

このような状況下、当社は電力・エネルギー、物流・サプライチェーン、都市交通・スマートシティの3分野に注力し、電力需給計画、プラント制御、配船計画、生産計画、都市計画、空調熱源制御等に対して計画最適化を行うAIエンジン及びプラットフォームの開発、運用・サポートを一貫して提供しております。これまでの計画業務は、オペレーションを熟知した熟練人材による多大な労力により成立しておりましたが、AI技術や数値最適手法を用いた当社の計画最適化サービスは、複雑かつ不確実性の高いビジネス環境下でも短時間で最適な計画を提供し、属人性を排することを可能としております。加えて、電力や物流等の事業会社を中心にエネルギー消費量の削減を可能とし、投資効果を明示できるサービスでもあることから、当社の事業に対する期待は一層高まっております。

当第2四半期累計期間は、引き続き電力・エネルギー、物流・サプライチェーン、都市交通・スマートシティの3分野に注力しました。特に電力・エネルギー及び物流・サプライチェーン分野において、既存顧客の本番導入に向けた開発が進捗いたしました。また、新たな運用・サポート案件が物流・サプライチェーン分野において開始され、相対的に当該期間のストック型売上が大きくなり、その比率が伸びました。これら本番導入に向けた一貫したサービスの提供に伴い、上期は既存顧客への開発が中心となり、主なサービス区分における取引先数は横ばいとなりましたが、顧客平均売上は増加となりました。

当社は、AIエンジン及びプラットフォーム開発をフロー型売上、運用・サポートをストック型売上として定義しておりますが、当第2四半期累計期間の電力・エネルギー分野の合計売上高は263百万円、うちフロー型売上は207百万円でストック型売上は55百万円、物流・サプライチェーン分野の合計売上高は280百万円、うちフロー型売上は173百万円でストック型売上は106百万円、都市交通・スマートシティ分野の合計売上高は84百万円、うちフロー型売上は64百万円でストック型売上は20百万円、社会インフラ3分野に分類されないその他の合計売上高は11百万円となりました。

また、当社は開発体制の強化に向けて優秀なエンジニアの採用を行うことで今後の事業拡大に向けた取り組みを進めており、当第2四半期会計期間末におけるエンジニアは65名となりました。このことから、製造費用におけるエンジニアの件数費は305百万円となりました。

以上より、当第2四半期累計期間について、売上高は638百万円となり、営業利益3百万円、経常損失17百万円、四半期純損失14百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債および純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の総資産は3,579百万円となり、前事業年度末と比較して2,003百万円増加いたしました。流動資産は3,278百万円となり、前事業年度末と比較して2,000百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が1,950百万円、売掛金及び契約資産が48百万円増加したことによるものであります。固定資産は301百万円となり、前事業年度末と比較して3百万円増加いたしました。これは主に投資その他の資産に含まれる繰延税金資産が3百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債は364百万円となり、前事業年度末と比較して45百万円減少いたしました。これは主に長期借入金30百万円、その他に含まれる未払費用が30百万円それぞれ減少した一方で、その他に含まれる未払法人税等が12百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は3,215百万円となり、前事業年度末と比較して2,049百万円増加いたしました。これは東京証券取引所グロース市場への株式上場に伴う公募増資等の実施により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ1,031百万円増加した一方で、四半期純損失の計上により利益剰余金が14百万円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は2,622百万円となり、前事業年度末と比較して1,950百万円増加いたしました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は39百万円となりました。主な収入要因は、減価償却費20百万円である一方、主な支出要因は、税引前四半期純損失17百万円、売掛金及び契約資産の増加48百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は18百万円となりました。支出要因は、有形固定資産の取得2百万円、無形固定資産の取得16百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は2,008百万円となりました。収入要因は、東京証券取引所グロース市場への上場に伴う株式の発行による収入2,063百万円である一方、支出要因は、長期借入金の返済30百万円、上場関連費用25百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月期の業績予想につきましては、2023年8月14日に公表いたしました「2023年6月期決算短信」に記載した内容から変更はございません。経営環境の動向を注視し、業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

なお、2024年6月期第3四半期累計期間の業績予想につきましては、売上高は引き続き堅調に推移し、営業利益は前年同期を下回るものの、着実に黒字幅が拡大する見通しです。当期は、電力・エネルギー分野におけるAI開発及びプラットフォーム開発の追加受注の影響や物流・サプライチェーン分野における新規顧客獲得が下期に集中する予定のため、売上高は当第4四半期会計期間が最も大きくなる見通しです。

なお、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	671,809	2,622,173
売掛金及び契約資産	573,798	622,747
その他	31,687	33,168
流動資産合計	1,277,296	3,278,090
固定資産		
有形固定資産	9,680	10,107
無形固定資産	130,640	130,633
投資その他の資産	158,497	161,118
固定資産合計	298,818	301,859
資産合計	1,576,114	3,579,949
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	62,870	65,640
賞与引当金	—	46,766
その他の引当金	—	182
その他	275,237	213,071
流動負債合計	338,107	325,660
固定負債		
長期借入金	71,630	38,810
固定負債合計	71,630	38,810
負債合計	409,737	364,470
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	1,131,848
資本剰余金	1,394,500	2,426,348
利益剰余金	△329,738	△344,333
株主資本合計	1,164,761	3,213,863
新株予約権	1,615	1,615
純資産合計	1,166,377	3,215,479
負債純資産合計	1,576,114	3,579,949

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
売上高	638,478
売上原価	201,243
売上総利益	437,235
販売費及び一般管理費	433,646
営業利益	3,588
営業外収益	
受取利息	254
物品売却益	553
業務受託手数料	531
その他	568
営業外収益合計	1,908
営業外費用	
支払利息	587
上場関連費用	21,667
補修費用	456
営業外費用合計	22,711
経常損失(△)	△17,215
税引前四半期純損失(△)	△17,215
法人税、住民税及び事業税	1,145
法人税等調整額	△3,765
法人税等合計	△2,620
四半期純損失(△)	△14,594

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純損失(△)	△17,215
減価償却費	20,588
敷金及び保証金償却額	594
賞与引当金の増減額(△は減少)	46,766
その他の引当金の増減額(△は減少)	182
受取利息及び受取配当金	△254
支払利息	587
上場関連費用	21,667
売掛金及び契約資産の増減額(△は増加)	△48,948
前払費用の増減額(△は増加)	4,382
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,342
契約負債の増減額(△は減少)	4,697
未払費用の増減額(△は減少)	△30,003
未払金の増減額(△は減少)	△13,504
未払又は未収消費税等の増減額	△35,470
その他	10,360
小計	△36,912
利息及び配当金の受取額	6
利息の支払額	△591
法人税等の支払額	△2,290
営業活動によるキャッシュ・フロー	△39,787
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△2,096
無形固定資産の取得による支出	△16,263
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,359
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△30,050
株式の発行による収入	2,063,696
上場関連費用の支出	△25,134
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,008,511
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,950,363
現金及び現金同等物の期首残高	671,809
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,622,173

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年7月7日付で東京証券取引所グロース市場に株式を上場いたしました。この上場にあたり、2023年7月6日を払込期日とする有償一般募集増資（ブックビルディング方式による募集）による新株式876,000株の発行により、資本金及び資本準備金はそれぞれ862,334千円増加いたしました。

また、2023年8月7日を払込期日とする有償第三者割当増資（オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資）による新株式172,200株の発行により、資本金及び資本準備金はそれぞれ169,513千円増加いたしました。

この結果、当第2四半期会計期間末において、資本金が1,131,848千円、資本剰余金が2,426,348千円となりました。

(セグメント情報等)

当社は、AI開発事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。